

【氏名】 塩崎 悠輝

【所属大学院】（助成決定時）同志社大学院

【研究題目】

東南アジア・マレー世界の国家形成・変容とイスラーム、インドネシア、マレーシアの独立期から現在まで

【研究の目的】

研究目的は、20世紀以降現代にいたるまでの東南アジアにおけるイスラーム主義の政治、社会に対する影響、とりわけ、国家のあり方に対する作用を明らかにすることであり、特に東南アジアにおけるイスラーム主義運動のこれまでの展開と今後の行方を明らかにし、イスラーム復興が進む現代において、イスラームが大きな影響を持つ地域の国家と社会がどのように変容してきたか、今後どのような姿をとるようになるかを明らかにしていくことである。一神教と文明の共存と安全保障という課題について、具体的、現代的なケースについての研究を行う中で、紛争やコミュニティ間で起きる社会問題の原因や背景などを究明しつつ、事態の改善への道筋をも示しうるようなかたちで寄与していくことも、研究目的の一つである。

【研究の内容・方法】

東南アジアのイスラームの政治、社会に対する思想的影響—中東からの影響も含む—について、まず文献分析を主とする思想研究を通して明らかにしたうえで、現地の社会、政治活動に密着した調査を行い、イスラームという、歴史的観点からも現代政治研究においても思想的側面などが十分には研究されていない課題について、歴史的研究および最新の事情も含めた研究を行った。

申請者は、東南アジア地域における20世紀前半の独立前後の時期におけるイスラーム主義勢力と独立運動、国家形成の関係に関する歴史学的研究を行った。東南アジアにおいて、インドネシアなどの国家の形成とイスラームは、深いかかわりをもっていたが、歴史学的研究において、オリエンタリズム的偏見などから、この点は無視されるか、あまり強調されずにきた。宗教の影響を無視しようとする偏った視点は、政治、経済等においても問題

の原因となりがちであり、まず、歴史的視点から、新たな認識が示される必要がある。申請者は、20世紀初頭以来の、この地域での一神教と政治、社会の関わりについての歴史学的研究を行った。植民地独立期当時に存在したイスラーム主義運動と主権国家形成過程の関係、さらに、独立後、国家がより秩序化され、統治が確立されていく中でのイスラーム主義運動の関与、変容についても研究を行った。

次いで、申請者は、20世紀初頭から現代にいたる、中東のイスラーム思想、とりわけ、政治思想、その中でも国家論の東南アジアへの移入、定着、変容についても研究を行った。過去においても現代においても、東南アジアのイスラーム思想においては、中東からの影響が決定的な位置を占めている。イスラーム研究において、中東の文献と東南アジアの文献を同時に分析対象とした研究は現在のところ多くはない。申請者は、中東と東南アジアの関係について、特に国家論を中心とした思想的影響を中心に研究した。申請者の研究すべてに共通していることであるが、申請者は現在までの研究において、イスラームをはじめとする一神教の宗教的文献を研究対象とするとともに、それらの文献の思想的影響と政治、社会の関係について政治学や社会学の方法論を用いつつ研究を行ってきた。

【結論・考察】

2007年12月の時点では、研究は主にマレーシア及びタイ南部を対象としたものにとどまり、インドネシアにおいて十分な調査を行うことはできていない。また、中東と東南アジアのイスラーム主義思想の交流に関する研究も、中東における実地調査を行うことはできておらず、十分に進展していない。これらの調査は今後の課題である。

現在まで進められてきた研究は、一神教の政治、社会に対する影響について新たな認識を示すものであり、一神教学際研究の発展に寄与していくものである。さらには、広くイスラーム地域研究、東南アジア地域研究全般にも新たな寄与をなすものである。また、今後は、これらの研究に基づき、イスラーム主義運動とその政治への影響、そのことと現代における国家のあり方について研究していく。この研究は、現代における文明の共存と安全保障の可能性、これらの課題と一神教のかかわりについての研究でもある。